那須平成の森だより

～自分だけの自然に出会う～

第10回「小中学校向けプログラム」

「森に入る前に皆さんと約束があります。一つ目、人の話を聞く。二つ目、けがをしない、自分の体は自分で守る。この約束を守れますか？」。那須平成の森が行う団体プログラムに最も多く参加するのは小中学校。プログラムを始める前に、必ずこのような「掟」を共有します。集中力が切れる度に「掟」に戻り、緊張感を取り戻すためです。

まず、水が浸みだしている源流部に入りみんなで水に手を付けてみます。「この水温、何度かな？」。子どもたちからさまざまな回答が上がります。「正解は9度。源流の水はとてもきれいなので、水生生物がたくさんいます。この流れが、那珂川となって太平洋に流れて行くんですよ」。「へぇ～、那珂川が生まれる場所なんだぁ」。

那須連山は県内で唯一の分水嶺（※）です。水の循環は環境を考える上で最も重要な要素で、プログラムを通して子どもたちは、大気の循環と私たちが使う水について深く考えます。

続いて、ツキノワグマが登った木に残された爪痕を見せて、「何のために登るのかな？」と尋ねます。

ツキノワグマの行動域は広く、那須平成の森全体でも生息するのは数頭です。食料確保のために木に登ること、一個体が健康に生きるためには、微生物や昆虫などたくさんの生き物が支える広大な森が必要で、日本全体でみると生息環境はだんだん減少していること、ツキノワグマは常に死と向かい合っていることを子どもたちは理解すると、「ツキノワグマは怖い！」というイメージが変わっていき、自然界の厳しさを想像できるようになります。

クマの爪痕を触ってみる「どうやって登ったんだろう?」
令和2年8月（黒田原小1年生）

感受性が育まれる幼少期に直接自然に触れ、人間以外の生き物に関心を寄せる機会はとても重要で、その後の自分の価値観に影響を与える「原体験」となります。この体験を重ねることによって、自尊感情が育ち、「命」への畏敬、そして友達を大切に思う気持ちが深くなっていきます。

※異なる水系の境界線のこと。那須は、太平洋に流れる「那珂川」と日本海に流れる「阿賀野川」の源流部。

那須平成の森フィールドセンター
インタープリター　若林千賀子

森のなかでいろいろな物みつけたよ～!楽しかったねぇ!
令和2年8月（黒田原小1年生）

かっこう

「広報那須」の担当者となり1年が過ぎようとしている。初め、「様々」は「さまざま」、「及び」は「および」など、広報紙で使う漢字や仮名の表記のルールに慣れず苦労した。▼新聞記事によると今年2月、国語のあり方を話し合う国の専門家会議が、役所の仕事で使う公用文のルールを改めるよう求める報告書をまとめたとあった。ホームページなどで幅広く情報発信をするようになったことや、外国にルーツを持つ人が増えていることなどを踏まえて、難しい日本語ではなく、状況に応じて分かりやすい表現を使うよう求めている。▼具体的には、パンフレットやホームページなど幅広い読み手を想定するものは、「？」「！」などの記号を使う、「手続き」「雇い主」など送り仮名をつける、「御指導」を「ご指導」とするなど読みやすいように仮名にする、などの新しいルールを提言した。ただし、役所間の通知などは従来通り法令に準じた硬い表現を使うとしている。▼表記のルールをはじめ、読みやすく分かりやすい文章を書くことの難しさを痛感した1年だった。情報を正確に伝え、取材した人の思いを伝えられるよう、そして多くの人に読んでもらえるよう、読みやすく分かりやすい文章を心掛けたい。

こんにちは赤ちゃん

令和2年3月27日生

平山　穂（みのり）ちゃん（弓落）

父 宗孝さん
母 裕子さん

穂ちゃんは…
食べるの大好き！音楽大好き！笑顔いっぱいの毎日です。

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課広報広聴係（☎72-6901）まで。

町の世帯と人口

（3月1日現在・住民基本台帳）（ ）の数字は前月比

- 世帯数　10,429世帯　(+3)
- 人口　24,723人　(-21)

男 12,306人（-13）
女 12,417人（-8）

出生	9人	(+ 1)
死亡	32人	(- 3)
転入	73人	(+ 2)
転出	71人	(+19)
その他	6人	

4月5日発行（月1回）／発行：那須町役場（〒329-3292栃木県那須郡那須町大字寺子丙3-13）編集：総務課（☎72-6901　FAX72-1133）
那須町公式ホームページアドレスhttp://www.town.nasu.lg.jp/